

# Veritas NetBackup™ Self Service リリースノート

9.0

マニュアルバージョン 1

**VERITAS™**

# Veritas NetBackup™ Self Service リリースノート

最終更新日: 2021-02-28

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2021 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、Veritas の Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

第 1 章	NetBackup Self Service リリースノート .....	5
	NetBackup Self Service 9.0 について .....	5
第 2 章	新機能および機能強化 .....	7
	新機能および機能強化 .....	7
	修正済みのバグ .....	9
	以前のバージョンからのアップグレード .....	10

# NetBackup Self Service リリースノート

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Self Service 9.0 について](#)

## NetBackup Self Service 9.0 について

NetBackup Self Service 9.0 は自動化と制御を IT に提供する一方、ユーザーがセルフサービスで通常のバックアップやリストアのリクエストを処理できるようにします。

Self Service のマルチテナント、役割ベースのアクセス、ダッシュボード機能により、保護対象や進行中のバックアップ使用状況を表示できます。Self Service のリクエストフォームを使うと、NetBackup 管理の複雑性についてトレーニングを受けていないユーザーでも複合ポリシー管理タスクを安全に管理できます。

### 企業の場合

複数の場所とデータセンターで多くのエンドポイントに対しバックアップおよびリストアを管理することは、通常はスペシャリストのチームを必要とするタスクです。ポリシーへの変更を有効にすることは、時間がかかる、間違いやすい手動アクティビティとなり、これによって重大なリソースが保護されなくなる可能性があります。

直感的なセルフサービスポータルを有効にすると、複雑さと間違いが減り、多くの手動ポリシー変更アクティビティが自動化されます。また、非バックアップスペシャリストは管理および監査される環境でバックアップおよびリカバリ関連のタスクを実行できるようになります。

### サービスプロバイダの場合

混合プラットフォームで複数のテナントにバックアップおよびリストアサービスを提供することは、多くのサービスプロバイダにとって課題です。サービスプロバイダはセルフサービスを有効にし、バックアップおよびリストアに対するテナントリクエストを自動化できます。

このアクションによりテナントを管理し、プロビジョニングコストを大幅に減らすことができます。

**NetBackup Self Service** では、複数のテナントが、インフラストラクチャのバックアップおよびリストアのリクエストが直感的に行われる目的に合ったセルフサービスポータルにアクセスできるようになります。保護環境のステータスは追跡され、報告されます。

サービスプロバイダはテナント環境間の厳密な分離およびセキュリティを保証しながら、自動化から取得します。テナントは保護内容を管理および表示できます。

## インストール

**NetBackup Self Service** をインストールする方法については、『**NetBackup Self Service 9.0 インストールガイド**』を参照してください。

# 新機能および機能強化

この章では以下の項目について説明しています。

- [新機能および機能強化](#)
- [修正済みのバグ](#)
- [以前のバージョンからのアップグレード](#)

## 新機能および機能強化

### SLA からのポリシーの除外

バックアップがない保護対象クライアントに対して信号機システムによって要注意アラート状態がトリガされないように、新しいオプションが追加されました。このオプションは保護ポリシー内で構成します。

このオプションは、ポリシーが自動的に作成された後に使用されない、つまりバックアップが実行されないスクリプトベースのアプリケーションに役立ちます。1 つ以上の未使用のポリシーを除外するメリットは、誤った通知が表示されなくなり、注意が必要な問題に集中できることです。

### VMware Cloud Director のインポートの改良

インポートのパフォーマンスを向上させるため、新しい VMware Cloud Director 10.2 API が使用されます。

NetBackup Self Service 8.2 MR1 で vSphere 名をインポートするように更新された後、VMware Cloud Director から仮想マシンをインポートすると、パフォーマンスに大きな影響が出ていました。このパフォーマンスへの影響により、VM のインポート時間が長くなっていました。今回の改善でこの問題に対処し、VMware Cloud Director 10.2 に導入された新しい API を使用します。この API は vSphere 名を提供するため、NetBackup Self Service は追加で vCenter に接続する必要がなくなりました。

このパフォーマンスの改善により、VMware Cloud Director 10.2からのすべてのインポートでvCenter クレデンシャルが不要になるというメリットも加わりました。クレデンシャルは、VMware Cloud Director バージョンが 9.5 から 10.1 の場合にのみ必要です。

## Veritas Smart Meter は Veritas Usage Insights へ

NetBackup 9.0 以降では、Veritas Smart Meter は新しい名前 Veritas Usage Insights になります。Smart Meter の一部のインスタンスは引き続き NetBackup Self Service インターフェースに残りますが、マニュアルには新しい正しい名前が反映されています。インターフェースで Smart Meter という名前が表示された場合、この機能はマニュアルで Usage Insights として記載されているため、注意してください。

Usage Insights について詳しくは、『[Veritas Usage Insights for NetBackup スタートガイド](#)』を参照してください。

## インストールと構成の改善

インストールと構成の改善により、インストールウィザードの[Directa API 接続文字列の編集 (Edit Directa API Connection String)]という新しいオプションを使用して、API 接続文字列にアクセスできます。

この新しいオプションを使用すると、ユーザーインターフェースから簡単にアクセスして、API 接続の詳細とログオンクレデンシャルを更新し、必要な認証を設定できます。サポートされる認証形式とパラメータは次のとおりです。

- **Certificate:** クライアント証明書の拇印、サーバー証明書の拇印
- **WindowsWithCredentials:** ユーザー名、パスワード
- **WindowsIntegrated:** 引数なし
- **Basic:** ユーザー名、パスワード
- **Anonymous:** 引数なし

例:

```
authtype=Basic;url=http://localhost/DirectaTrunkPublicWebService/  
DirectaApi.svc;username=username;password=password;
```

*username* と *password* を正しいユーザー名とパスワードに置き換えてください。

Directa API 接続文字列は、標準のインストールまたはアップグレードプロセス中にあらかじめ設定されています。このプロセス中またはその後の設定変更で、この文字列を更新できます。

## 終了日時が 2038 年を超える保持期間

以前のバージョンの NetBackup および NetBackup Self Service では、2038 年までの保持期間のみをサポートしていました。また、これは無制限の保持期間の限界でもありました。今回、最大保持期間が 3000 年までに延長されました。この変更により、バックアップ



ブを長く保持する必要があるユーザーにとって柔軟性が向上します。この変更について詳しくは、『NetBackup リリースノート』を参照してください。

## UNIX または Linux の NetBackup マスターサーバーで拡張セキュリティをサポート

NetBackup Self Service は SSH を使用して UNIX および Linux の NetBackup マスターサーバーと通信します。今回のリリースでは、より安全な通信を可能にするため、追加のキー交換アルゴリズムのサポートが追加されました。追加のアルゴリズムは次のとおりです。

- curve25519-sha256
- curve25519-sha256@libssh.org
- ecdh-sha2-nistp256
- ecdh-sha2-nistp384
- ecdh-sha2-nistp521
- diffie-hellman-group14-sha256
- diffie-hellman-group16-sha512

## その他の機能強化

- VMware Cloud Director 10.1 のサポート
- VMware Cloud Director の部分的な成功と失敗に関するインポートメッセージの改善
- NetBackup と NetBackup Self Service の間の遠隔測定の改善
- SQL Server 2019 のサポート (および SQL Server 2012 のサポートの削除)

## 修正済みのバグ

- バックアップサーバーと REST のパスワードが異なる場合の vCenter 資産のインポートエラー
- カンマとピリオドをさまざまな言語で正しく使用してデータをグラフ化するための国際化の更新
- 明確に理解しやすくするためにメッセージを更新
- スケジュール設定されたタスクに無効な頻度を設定できる
- コンポーネントバージョンの更新
- 大きいインスタンスの使用状況のロールアップで待機操作がタイムアウトしてダッシュボードにエラーが発生する可能性がある

- 組織に 128 を超える vApp がある場合の vCloud インポートエラー

## 以前のバージョンからのアップグレード

NetBackup Self Service 7.7、7.7.3、8.0、8.1、8.1.2、8.2、8.3 からのアップグレードはサポートされますが、SQL Server 2014 以降を使用している場合に限定されます。詳しくは、NetBackup ソフトウェア互換性リストを参照してください。

『NetBackup Self Service インストールガイド』でも詳細を参照できます。「前提条件」セクションをよく読み、ご使用の環境が NetBackup Self Service 9.0 をサポートできることを確認してください。